

## 特集 / ご家族参加型葬儀

# 哀しみの涙から ありがとうの涙へ。 家族の思い出に 残る送り方とは？

創刊号では、スズソウが考える  
「葬儀」についてお伝えしていきます。

みなさんの葬儀に対するイメージとはどんなものですか？  
昔から伝わる儀式、決められた作法や形式的なことに従って行われるもの……このようなイメージを持つ方も多いのではないのでしょうか。  
スズソウでは、故人様にとって葬儀は「人生の卒業式」であると捉えております。  
人生は十人十色です。誰ひとり同じ人生はありません。  
だからこそ、人生の卒業式である葬儀も十人十色であってもよいのではないかと、とわたしたちは考えます。  
またご家族にとつて、これまでご家族に尽くしてくださった故人様に「ありがとう」の気持ちを伝えることができる最期のひと時であり、最期の思い出づくりをしていただければ、かけがえない機会でもあります。  
故人様らしい葬儀、そしてご家族が心からのありがとうを伝えられる葬儀、そのお手伝いをするのがわたしたちの役目であると、スズソウは考えます。



富田斎場の別館「蓮華庵」では、ぬくもり溢れる空間の中でご家族水入らず、故人様の思い出話を語り合いながらゆっくりとお過ごしいただけます。

そこでご提案させていただいているのが、ご家族参加型の葬儀。  
お孫さんの手による花祭壇づくりや故人様へ感謝のお手紙の朗読など、ご家族が故人様を偲ぶお気持ちを表現するためのご提案を様々にさせていただきます。  
「家族のために尽くしてくれた。だから最期は家族で尽くしたい。」  
このようなご家族のお気持ちが叶えられた時、きつと哀しみの涙は故人様へのありがとうの涙へ変わる、わたしたちはそう信じています。  
そしていつまでもご家族の記憶に残る葬儀になるよう、心を込めてお手伝いをさせていただきます。願っております。

# 故人様の思い出をずっと記憶の中に…。 小さなお子様も参加できる 「ご家族参加型葬儀」



## 献灯式

献灯とは、ローソクにあかりを灯し、故人様に捧げることです。通夜の前に故人様の旅立ちをご家族で見送ります。あかりは、故人様を導き、各々の心にあかりを灯す意味を込めています。



## 花祭壇づくり

葬儀の花祭壇をお孫さんやご家族にて仕上げていただきます。そうすることで、ご自分たちで送って上げられたという想いが強くなります。故人様の好きだったお花がございまして、可能な限りご用意します。



## 感謝のお手紙朗読

故人様との思い出や感謝の気持ちを、お孫さんやご家族の方に書いていただき朗読していただきます。ご希望の方は手紙と一緒に納棺して故人様に持つて行っていただきます。



## 棺づくり

一般的には葬儀社が行うものですが、ご希望の方には、お孫さんにお手伝いをしていただいています。ずっと心に残る思い出になります。



## ふるさと合唱

いつか故郷でまた会えるようにと願いを込めて、ご出棺の前にご家族で唱歌の「故郷(ふるさと)」を合唱していただいています。



## 季節のコラム ～旧暦と新暦～

暮らしの中で四季を知り、年中行事を行うのに欠かせないのが暦です。

暦は、はじめ朝廷や貴族が利用していたものですが、農作業への必要性から庶民も用いるようになりました。

現在日本で使われている暦は、陽の運行を基準にした「太陽暦」で、新暦とも呼ばれています。

これに対して旧暦は、月の満ち欠けを

基準として太陽暦の要素も含む「太陰太陽暦(たいいんたいようれき)」のことを指し、1872(明治5)年まで日本で使われていました。

月の満ち欠けを基準にすると1年が354日と短くなり、年を追うごとに少しずつ季節にずれが生じてしまいます。

そこで、季節感を把握するための指標として、太陽の運行をもとに1年を24分

割し、それぞれに季節の名称をつけた春分・秋分・夏至・冬至などの言葉が現在も用いられています。

1節気わずか15日ほどの期間にも、季節の移り変わりを繊細に感じ取り、それぞれに美しい名称を付けた日本人の豊かな心を感じます。

# やすらぎ物語

スズソウで葬儀をされたお客様の「ご家族での送り方」をご紹介します。



## 「人生の卒業証書」に思わず涙… 故人様の一生に改めて想いを馳せる時間に

生前は鉄道会社に勤務されていたという故人様。一日も休むことなく鉄道マンとして定年まで勤めあげられた故人様は、とても真面目で誠実な方で職場でも地域でも多くの人に頼られる存在だったそうです。葬儀の準備の中でご家族からそうしたお人柄をお聞きしたわたしたちは、ご家族には内緒で「人生の卒業証書」をご用意させていただきました。



納棺の際に、実は…と言ってお渡ししたところ、読み上げてくださった息子さんやご家族は「まさに父の人生はこのようなものだったと思います」と感激して涙を流されました。

その後、その人生の卒業証書も一緒に納棺させていただきました。

## お子さん・お孫さん・玄孫(やしゃご)さんに囲まれて 92年の人生の卒業式は、笑顔と拍手に包まれていました。

故人様は玄孫までいらっしゃる92歳の男性。大家族に囲まれてのご葬儀でした。花祭壇づくりを希望され、故人様の好きなお花をご用意してお孫さんやひ孫さんの手で行っていただきました。会場にいるのはご家族だけなので、リラックスした中で生前にお伝えできなかった言葉を思い思いに故人様にかけてながら、とても美しい祭壇をつくっていただきました。出棺の際には、故人様がお好きだったという競馬のファンファーレをBGMに。葬儀の最後には「家族が笑顔で送り出せる日まで長生きしてくれたことに感謝だね!」とご家族のみなさんが笑顔で拍手されていたのが印象的でした。



### 葬儀 Q&A

**Q** 「友引」にはなぜ葬儀は行われませんか？

**A** 「友引」「大安」というのは六曜によるもので、室町時代に日本に伝わったものです。「友引」は、この日に葬儀すると、それに友が曳かれる(一緒に誰かが死ぬ)というイメージから嫌われて、その日に葬儀をしないようになりました。

**Q** 四十九日法要(忌日法要)に贈るお花はどんなお花が良い？

**A** 葬儀では、刺のある花や派手な色は避ける傾向があります。四十九日が過ぎるまでは白でまとめたお花を贈るのが好ましいですが、ご家族を慰める気持ちを表した淡い色目のお花や、故人様が好きな花を取り入れるのもよいでしょう。地域の習慣で適したもの、適さないものも異なる場合がありますので、受け取る方への心遣いが必要です。

回答者  
鈴木 礼治



**Q** 忌引というのは親族のどこまでが当てはまるのでしょうか？

**A** 忌服期間は、官公庁サービス規定によりますと、配偶者10日、父母7日、子5日、祖父母3日、兄弟姉妹3日、孫1日、伯父伯母1日、配偶者の父母3日、配偶者の祖父母1日となっております。